



TAKIKAWA ROTARY CLUB

本日は 第2576回 例会

プログラム

まちづくり・川づくり

No. 2436 8月28日(木)

次週以降の予定

9月4日(木) 定時総会

9月7日(日) 50周年記念式典

9月14日(日) 早朝例会~ファイターズ応援に出発

第2575回 例会報告

2008年 8月21日(木)

会長挨拶・報告



北京では、オリンピックの熱戦が続いておりますが、今日は、甲子園での高校野球のことを考えてみました。北海道代表の駒大岩見沢高校は、2回戦も勝ち、3回戦の智弁和歌山高校と対戦し7回までは勝っておりました。しかし、8回に大量点を取られ残念ながら敗退しました。ここ数年、北海道を代表する高校の甲子園での活躍は、皆様のご記憶にもあると思いますが、駒大苫小牧高校の夏の大会2連覇そして準優勝もありました。今年も3回戦への進出、道民の期待に大いに応えてこれたものと思います。過去には、ほとんどの高校が1回戦で敗退し残念な思いをしたものですが、北海道代表の高校は、本当に強くなりました。

私たちの、滝川ロータリークラブ野球同好会も、彼らを見習い、8月30日に岩見沢で行われる、ロータリークラブ野球大会で勝ち上がり、あこがれの甲子園出場を目指して頑張りたいと思います。

しかし、クラブのメンバーを見渡すと、相撲部屋の力士じゃないかと見間違える選手も何人かおられますが、是非、私たちを、国技館ではなく、あこがれの甲子園に連れて行ってください。

本日は、陸上自衛隊第10普通科連隊長兼滝川駐屯地司令の甲斐康誠1等陸佐をお迎えしての例会です。今世界中でさまざまな紛争が起っておりますが、専門家として、日本の対応についてお聞きかせいただければと存じます

報告

本日三浦華園にて18:00より指名委員会が、開催されます。山口幹事は、19日からの公務出張でお休みです。幹事報告は、ございません。

先週のプログラム

〈職業分類委員会担当〉

〈ゲスト卓話〉



高山訓正分類委員挨拶

本日のゲストをご紹介します。第10普通科連隊長兼滝川駐屯地司令一等陸佐甲斐康誠様でございます。昭和60年3月に入隊し

ております。平成20年3月26日に現在の滝川で司令を勤められております。

〈自衛隊の現況〉

甲斐康誠様



この第10普通科連隊長が第11師団旅団になったことに伴いまして、旅団科改変で部隊のほうも編成が変わりました。そのことについて簡単に申し上げたいと思います。

まず、なぜ、師団が旅団になったのか？師団と旅団の違いは？

陸上自衛隊では、師団という1万人弱の規模の編成組織が、何を行うにあたって基本となる編成と位置づけられております。(これまでは、諸外国とも共通でした。)

戦力を集中して運用するという考え方の時代。質はともかく量の時代においては、この1万人規模の編成というのが、最も運用に適していたということだった。

ところが、戦後から最近に至って陸上戦闘の基本は、戦車と歩兵と砲兵という様々な機能を組み合わせ、コンパクト化した中で戦うという2000から3000人規模のチームをたくさん持ってそれを柔軟に運用する戦い方に変化をしてきました。

最近、テロその他、地域紛争、局地的な紛争がこの世界の中では主流になってきました。大規模な全面戦争の可能性は低くなりました。諸外国共に、旅団というもう少し小さな組織を作戦基本部隊として、運用することになりまして、師団、旅団の違いは、編成組織としては、約半分から3分の一に、師団から旅団になったというべきか？連隊戦闘団が拡大して旅団となったというべきか？この中間的な組織に世界の陸上戦闘の組織というのが移行したということでありまして、北海道においては、道東の一個師団が、旅団に。道央の11師団が11旅団になりました。

基本的には、連隊という看板を維持して、中身は少し小さくなってはおりますが、その中で従来と変わらない任務を遂行していかうということでありまして。

本題として中国の軍事的な戦略がどのような形になっていくのか？ということについてお話をします。ここ十数年、いろんな意味で台頭してきて、名実共に大国であります。この中国の行く末は、我が国が隣にありまして、経済・政治だけではなく安全保障の面でも関心を持たなければならない地域だと思えます。

軍事的にも元々量的には大国でありました。軍事予算もこの20年あまり増加をさせていまして、二桁の伸びが19年間続いています。中国の国防費は、はっきりはしませんが、6兆円あまりあります。2000年頃から比べると2倍近くなっております。

では、中国の軍事力はいかに？

中国最大の戦力は、核戦力です。弾道ミサイルを800基持っています。数だけで言えば世界一です。米・露は約500基です。ですが、米・露が所有しているのは、ICBMと言われる大陸間弾道弾です。1万キロ以上の射程を持っているものが主体であります。

中国は、数十基しか、ICBMを持っておりません。90%は、2~300キロの短距離ミサイルです。台湾の方向を向いているといわれております。ただ、数がここまで増えたのは、ここ数年であります。フランスは英国の核戦力はすべて潜水艦発射のミサイルです。それに比べると脆弱性があり実力は、核保有国の中では決して高くはありません。

ただし、政治的威嚇用としては、十分なものを持っているということでもあります。

兵員の数で言えば、文句なく世界一です。160万人います。装備品は、最新鋭のものは、数的には多くはないようです。海軍も中国では今、一番力を入れているところです。艦艇・空軍共に新しい装備を入れてきております。量的には、海軍は100万tということで、日本の倍の艦艇を持っておりますが、能力的には日本の2分の1以下と考えております。航空機も日本の10倍持っておりますが、能力的には10分の1から100分の1です。この海空戦力は、少しの実力差が圧倒的な差になるということで、日本のF15というような、最新鋭機などと比べて、ほぼ同等というのが、300機くらいと数的には1対10です。後の3000機はもの数ではありません。あとは、何が戦力差を生むかと言うと、全体のシステムです。

全般として、中国人民解放軍というのは、量的には巨大ですが、装備的には、2流で日米はといえば、逐次更新されている交代装備が主力装備です。中には博物館においておいたほうがいいという装備も使われております。量が大きいだ

けに、質を改善しようとする、巨額の予算が必要ということです。

1998年の国防予算から、海・空の戦力を向上させている理由の一番は、やはり台湾の解放というところが、明確な国家の目標となっているように思われます。

このきっかけは、96年に台湾で初めて台湾の総統を直接選挙で選ぶということがありました。当時、米国のCVBG空坊戦闘団が台湾海峡を南から北に通過をいたしました。このときに、中国は到底太刀打ちできないと考え、中国にとっては大変な屈辱となり、これをきっかけとして戦力UPをはかっているようです。

また、160万人の軍隊と共に、同数の武装警察が国内向けにもいるといわれています。今後、日本の中国への対応は、軍事的な備えもしながら、しっかりと手を握れるような体制をとることが重要と考えます。すでに防衛交流も中国とは持っております。

以上、自衛隊の現況、隣国である中国の軍事の現況と、我が国の取るべき道を軍事的な側面からお話をさせていただきました。



ニコニコBOX

伊藤 忠博会員

出張の為、職業担当委員会の例会を高山会員に依頼して、申し訳ありません。

高山 訓正会員

担当例会を終えて。

会長／細田 光人
幹事／山口 清悦
編集／クラブ会報委員会

電子メール info@rotary.gr.jp
ホームページ http://www.rotary.gr.jp/

例会日●毎週木曜日 PM0:30
例会場●ホテルスエヒロ
事務局●ホテルスエヒロ 7F
〒073-0032 滝川市明神町2丁目2-16
TEL(0125)22-3344
FAX(0125)24-2755



クラブ会報は再生紙を使用しています。